

四国横断自動車道 斜面对策技術検討委員会（第3回）

議事概要

1. 日時 : 令和 7年 2月27日(木) 10:00～12:00

2. 場所 : 徳島河川国道事務所 5階 会議室

3. 出席者

[委員] ※学識経験者は五十音順

浅井 健一 国立研究開発法人 土木研究所(つくば中央研究所)
地質・地盤研究グループ 上席研究員

蔣 景彩 徳島大学 環境防災研究センター センター長
大学院創成科学研究科理工学専攻
理工学部理工学科社会基盤デザインコース 教授

西山 賢一 徳島大学 大学院 准教授

原田 豊 四国地方整備局 道路部 道路情報管理官

[オブザーバー]

多田 友和 徳島県 県土整備部 高規格道路課 副課長 (代理出席)

4. 議事内容

(1) 開会

(2) 事業者挨拶

(3) 議事

1) 委員会の目的と対象地区

2) 現状の地形・地質概要、これまでの経緯 等

3) 調査結果

4) 大神子地区 道路構造の見直し検討 【審議事項】

5) 斜面对策工の検討にあたっての条件整理 【審議事項】

6) 斜面对策工の方針 【審議事項】

7) 今後の予定

5. 審議結果

- ・大神子地区における道路構造について、トンネル構造から切土構造へ変更することは妥当である。
- ・斜面对策工の検討を進めるにあたっての条件は妥当である。
- ・各地区の斜面对策工の方針は妥当である。

6. 主な意見

- ・岩盤深度やブロック形状を把握するために十分な地質調査が実施できている。
- ・地質調査をどれだけ追加したとしても、地質情報にある程度の不確実性は残るため、詳細設計時にはこれらの不確実性を踏まえた設計とすること。
- ・大神子地区の道路構造について、トンネル構造から切土構造へ見直す方針は適切である。トンネル構造では地すべり活動による変状があった場合の対策が困難であるため、多少な変状が発生した場合でも対応が可能な切土構造が適する。
- ・切土後は斜面の状態も変化すると考えられるため、長期的な継続観測が必要。
- ・今後の詳細設計においては、下記の点に留意すること。
 - 計画道路に対し、後背斜面の緩み岩盤の分布や片理面の走向を考慮した切土形状が重要であり、施工時の小規模崩落防止のため、慎重に検討すること。
 - 降雨時の地下水位上昇にも配慮した法面の排水対策を検討すること。
 - アンカー工を採用する際は、その地区に適した受圧構造物を検討すること。
 - 住宅等が近接していることから、地域住民の生活に配慮したうえ、実現性のある施工計画を検討すること。